ネギま！　殲滅眼と強欲をもつ槍兵

米

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ネギま！　殲滅眼と強欲をもつ槍兵

【Ｎコード】
Ｎ７１４２Ｙ

【作者名】
米

【あらすじ】
二槍使い兼殲滅眼持ち兼鋼の錬金術師の強欲の能力持ちが頑張ります。

作者は文才ありません。

プロローグ

こんにちは。

僕の名前は■■■■■です。あ、スミマセン僕は死んだので前世の名前は喋れないようです。

ん？なにを言ってか分からないって？今から説明しよう。

1．あれ、ここどこ？なんか真っ暗だな。

2．神（仮）登場。

「貴様は死んだ。が、それは儂のミスでな、極悪人に天罰を下すつもりがお主に下してしまったのだ。すまんの」

よく分からないが俺は死んでそれはこいつのせいだと……よし！殺そう！

と、言う訳でいま足元に神（仮）が転がっています。

神「ぐふっ。ま、まぁそう言うことだからお主を転生させることにした。そのさい3つ願いを叶えさせてやろう。あっ！スミマセン、威張らないから蹴らないで！」

なに威張ってるんだこいつ。

「まぁいい。願い事か……俺が転生する世界はどんなとこだ？」

神「魔法や気があり。殺し合いがある所です！サー！」

「それじゃあまずは、漫画伝説の勇者の伝説に出てくる殲滅眼と鋼の錬金術師の強欲の能力。あ、魔改造でその世界最強クラスの一撃でも防げるようにして。殲滅眼も魔改造で気も吸収出来るようにして。

あと二十年の間ここで修行したいから誰かだしてくれ」

神「分かった。そうだな……

ディルムッド・オディナなんててどうじゃ。ケルト神話に出てくる槍兵のなかでも屈指の実力者じゃ」

「まぁまかせる。

それと最後にお願いなんだが、俺の家族と兄弟と親を出来るだけ幸福にしてくれないか？」

神「ふむ。せいぜい十が十一になるくらいたぞ？」

「構わない頼む。」

神「よかろう。お主はこの扉をの向こうにいるディルムッド・オディナの所にいけ」

「分かった。」

さぁ。来世では死なないよう頑張るか！

設定

人物　ライガット・オディナ

性別　男

身長　前世　１８５センチ転生後１３６センチ

能力　鋼の錬金術師の強欲の能力（魔改造）
　伝説の勇者の伝説の殲滅眼（魔改造）

能力値　身体Ｂ－　耐久Ｃ－　俊敏Ｂ～ＥＸ
　幸運Ｅ
　宝具Ｂ－

【クラス別スキル】

対魔力：Ａ＋
　ここでは殲滅眼により極限まで効かないとします。

【固有スキル】

心眼（真）：Ｃ　修行・鍛錬によって培った洞察力。　窮地において自分の状況と敵の能力を冷静に把握し、その場で残された活路を導き出す“戦闘論理”。チャンスを手繰り寄せられる宝具

『破魔の紅薔薇（ゲイ・ジャルグ）』

ランク：Ｂ　種別：対人宝具　レンジ：２～４　最大捕捉：１人
　――魔力による防御を無効化する長槍。
　魔力によって編まれた防具はこの槍の攻撃に対し効果を持たず、
　一切発揮されなくなる。
　持っているのは限りなく本物に近い偽物で本物よりもろい。
　契約や呪いは覆せない。

『必滅の黄薔薇（ゲイ・ボウ）』

ランク：Ｂ　種別：対人宝具　レンジ：２～４　最大捕捉：１人
　――回復不能の傷を負わせる呪いの槍。

この槍によるダメージはＨＰの上限そのものが削減されるため、
いかなる治癒魔術、再生能力をもってしても『傷を負った状態』
にまでしか回復出来ない。

転生しました！……あれ？

あれから二十年。
師匠に鍛えられだいぶ強くなりました。（実はすでに本気のディルムッド・オディナといい勝負をするほど。つまり英雄なみ。）
ディ「貴様はもう十分強くなった。それゆえ、わが名である『オディナ』を与えよう。」
「ありがとうございます、師匠。」
神「準備はいいな？おっと。忘れてた。餞別じゃ。受けとれ。」
これは！
「ゲイ・ボウとゲイ・ジャンヌじゃないか！どうして？」
神「それは限りなく本物に近い偽物じゃ。本物よりはもろいが能力はほぼ同じじゃ。それではがんばってこい！」
ディ「貴様の活躍、期待してるぞ！」
「はい！それでは！」　俺は扉を抜け、転生する。あれ？また子供になるなら槍とかどうするのかな？まぁいっか。

で、結果転生したのは
「は…ははははははははははははははははは！やった、やったんだ！ありとあらゆる魔法を吸収し、身体強化をできる殲滅眼、ありとあらゆる物理攻撃を防ぐ最強の楯！そして旧世界の英雄ディルムッド・オディナの戦闘能力を持った最強種であるあらたな生物を作り上げたぞ！！！」
はい、分かります？人造人間として生まれました！　なんというご都合主義！設定すべてこの人がつくったことになりました！
まぁとにかくさっさとここからにげないとな。

「そこまでだ！警備団だおとなしくしろ！」
「くそ！しかしこいつがいれば！」
なんか考えて事してたらいろいろあり、解放されそうです。よし！向こうの人に保護してもらお。
ガシャン！しゅうううぅぅぅ
「くそ！気よつけろ。なにがくるか分からんぞ！」　「はははははは！貴様らではこいつには勝てんよ。はははははんぐっ！貴様な、何をしている敵は向こうだ！ま、まてやめろ！た、たすけギャーーーーー！」
取りあえず俺を作り上げたやつは気絶させた。え？ややこしいって？そこらへんはほら、作者の文才がね？
ま、まぁこれで向こうの人にも敵意がないことを分かってくれなよね？
「こちらの言葉は分かるか？」
コク
「喋れるか？」
「少し……」
「何故あの人間を殺した？」
「何かあの人は企んでいたから。それに殺してない。気絶してるだけ。」
「そうか……ではついてこい皇帝陛下にご報告せねば」
「分かった。」
さてさて。どんな世界かな。

あ、二槍は俺だけが使える武器として俺を作り上げたやつがつくっていました。なにげすげぇなあいつ。

二話

こんにちは。あの日から早一年、あの後警備団の方と一緒に皇帝に会い、騎士団に入って一緒に修行することになりました。どうやら自分が歴代最年少の騎士のようです。（パット見、五才です。）

とは言え、この身は我が師、ディルムッドに鍛えられ、殲滅眼やグリードの能力もあり、既にバグに近かったです。

「オーイ！オディナ！ちょっと此方こい！」

彼はムー。自分と一緒に皇帝に会った人です。ちなみに彼は亜人です。僕も亜人の長命種と言う人より長生きする種族だそうです。

「何？ムー。」

「お前がいつも使っている槍あるだろ？あれの持っている能力が騎士団としては欲しくてな、貸してくれないか？」

「いいよ。帝国には助けてもらった恩があるからね、協力するよ。」

「本当か？ありがとう！」

え？いいのかって？大丈夫。この前夢で神（仮）からお告げがあり、曰く

・槍は二本ともお前以外が触ると刺が生える

・殲滅眼は魔法のように外に放出するのは吸収できるか、身体強化の魔法や気は吸収出来ない。

とのことでした。

だからムーが触ると……

「いったぁぁぁぁ！」　こうなる訳で。

「どうやらこれは俺だけしか使えないみたいだね。」

「そ、そうか。」

まぁとにかくムーと話したり修行してるといつの間にか他の騎士団の人が喋ったらしく、有名になったみたいで町にでると『最強の楯と殲滅の槍兵』などと長い二つ名で呼ばれ、そのたびにムー

がニヤニヤするから殴る（強欲の能力つき）ことを繰り返しています。

ｓｉｄｅ　ムー

こんにちは。ムーです。　さてさてもうオディナと出会って一年がたったのか。早いな。いま俺とあいつは五才としがはなれているがまぁ楽しく日々過ごしています。

「これ！ムー！オディナは何処じゃ？」

「あっ！テオドラ様。オディナなら今は多分訓練所ですよ。」

「分かったのじゃ。ふふふ、まっておれよオディナよ。今日こそ貴様を妾の騎士にしてみせるぞ！」

まったく、テオドラ様も頑張るな。それにしてもあいつもさっさと折れて護衛すればいいのに。

ｓｉｄｅ　テオドラ

妾が初めてあやつに会ったのは父上に連れられ騎士団の訓練所に来ていたときのことじゃ。

そこには二つの槍を操り、魔法を吸収しながら戦うオディナがおった。

妾はその槍兵の強さに惹かれたのだろう。とにかくあやつが欲しくなり、妾の騎士になるように言ったのだがなかなか首を縦にふらん。しまいには逃げ出すしまつ。何度も諦めようとしたが、その度に何故か胸が痛くなる。

むぅ。これもオディナのせいじゃ！絶対に妾の騎士にして一生妾のために働いて貰うぞ！

side　オディナ

なんだ？いま寒気が。風邪かな？

「見つけたぞぉぉぉぉぉぉ！オディナぁぁぁぁぁ！」

げ！テオドラ様！

「お願いします。諦めて下さい！」

「いやじゃ！何故……何故そんなにいやがるのじゃ？」

「俺は帝国に恩がある。それを返すため、騎士団で頑張るんだ。」

「そうか。分かったのじゃ。ならば十歳になったら妾の護衛になってくれんか？」

「う～～～ん。分かりました。そうします。」

「そうか！では楽しみに待ってるぞ」

はぁ。やっと解放される。

にしてもテオドラ様の護衛か……何だろう。なんだか嬉しいな。

よし！頑張るか！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7142y/

ネギま！ 殲滅眼と強欲をもつ槍兵

2011年11月22日02時13分発行